

## 臨床実習での到達点を考える

### 特集にあたって

作業療法養成教育において臨床実習の占めるウエイトは、時間でいえば約1,000時間、単位数としては最低18単位であるが、1,000時間以上の臨床実習で、単位も20を超える養成校が多く存在している。しかし、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に記載されている教育内容93単位から換算すると、臨床実習はそのうち約2割でよいことになる。

今後、OTの業務が地域で大きく展開されることが期待される中、新卒者の臨床力、即戦力がますます求められてくるのは自明の理である。

今回、さまざまな立場・視点から臨床実習の到達度をキーワードにご執筆いただき、あらためて執筆陣のご慧眼、ご賢察に頭を垂れなければならないと感じ入る次第である。OTとしての責任、プライド、対象者への想い、後進への期待、日本作業療法士協会・養成校への提案等が密に凝縮されている。

本特集は、各執筆者の渾身の筆力によって表現されていると思う。読者には、同意、批判、驚嘆、賛同等、感じ取られる部分が満載であろう。今般の現状と展望をお受け止めいただきたい。

(徳永千尋)

#### 企画担当

徳永千尋 (日本医療科学大学, 作業療法士)

澤 俊二 (金城大学, 作業療法士)

山本伸一 (山梨リハビリテーション病院, 作業療法士)